

---

---

# 日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

## 2011 年度 NO.2

### 目次

- ・ 第 13 回大会準備報告
- ・ 理事会報告
- ・ 年報編集委員会報告
- ・ 広報委員会報告
- ・ 企画研究 WG 報告
- ・ 支部活動報告  
(北海道支部、関東支部、関西支部、九州支部)
- ・ 平成 24 年度高良記念研究助成募集について
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 会員情報

---

### 第 13 回大会準備報告

(第 13 回大会実行委員長 折戸 晴雄・玉川大学)

第 13 回大会は 2012 年 9 月 8 日(土)・9 日(日)の両日、会場を玉川大学キャンパスにて開催いたします。

今大会のテーマは「インターンシップのこれまでとこれから―秋入学は人材育成の起爆剤となるのか?―」です。東京大学が国際標準と言われる秋学期入学への全面移行を表明したことによって、秋入学への議論が全国の大学において活発に行われるようになりました。3 月には、国立大学協会が「教育改革の一つの手段」として、秋入学を議論することで一致し、この動きは加速化しつつあります。

大学が秋入学へと移行した場合、インターンシップにおいても、「ギャップターム」や「卒業後の空白期」の過ごし方、さらには採用のあり方など新たな検討課題が顕在化する可能性があります。

本学会は、インターンシップを学校教育の一環として捉え、産学関係者の高い倫理と道義のもとにインターンシップが健全に発展、普及していくことを目指してきました。

上記のような状況において、秋入学への移行した場合に生じると考えられるさまざまな課題を、インターンシップからの視点で捉え直し、産業界、学校教育関係者、そして生徒学生に有益となるインターンシップの未来像を議論することは意義あることであると考えています。

これらを踏まえ、今大会では産業界の方に秋入学がインターンシップに与える影響に関する基調講演をお願いする予定です。さらにシンポジウムでは秋入学に起因する課題を、①企業からみたメリットとデメリット、②大学からみたメリットとデメリット、③高校・専門学校からみたメリットとデメリット、の 3 つの観点から掘り下げていくことを試みたいと考えております。

大会概要としては、一日目は基調講演、シンポジウム、高良記念研究助成報告とし、夕刻から懇親会を予定しております。二日目は自由研究発表といたしました。会員の皆様にはふるってご発表をいただけますようお願い申し上げます。なお、大会の内容や会場へのアクセスなどの詳細情報につきましては 5 月中旬までには第 13 回大会ウェブサイトに掲載いたしますのでご覧ください。

大会実行委員会を挙げて皆様のお越しを心よりお待ちしております。

### 理事会報告

2011 年度第 3 回理事会 (2011 年 10 月 7 日@北海道大学東京オフィス)

#### (1)入退会申請者について

入退会の申請者について、すべて承認された。

(2)各種委員会・ワーキンググループ委員構成について  
会長より、各種委員会・ワーキンググループの委員構成について説明があり、承認された。また、榎本記念賞企画 WG と組織運営 WG の 2 つの新設 WG について、その役割について検討し、承認された。

#### (3)第 13 回大会について

折戸大会実行委員長より、9 月 7～8 日の開催予定であることが報告された。

#### (4)各委員会・ワーキンググループ報告、各支部報告

各委員長、支部長等より説明があった。(詳細は本ニュースレターの記事を参照願います。)

2011 年度第 4 回理事会 (2012 年 3 月 16 日@九州大学西新プラザ)

#### (1)入退会申請者について

入退会の申請者について、すべて承認された。

(2)高良記念研究助成審査委員会の委員交代について  
高良記念研究助成審査委員会の一部委員の交代について了承された。

#### (3)第 13 回大会について

開催要領、テーマについて説明があり、了承された。

#### (4)各委員会・ワーキンググループ報告、各支部報告

各委員長、支部長等より説明があった。(詳細は本ニュースレターの記事を参照願います。)

(事務局)

### 年報編集委員会報告

年報編集委員会では、現在、編集委員、査読をお願いした会員諸氏、第 12 回大会実行委員会の協力を得て、年報第 15 号の編集作業を進めております。2 月 29 日締切の投稿論文募集には、10 篇の意欲的な投稿が寄せられました。現在、査読結果をとりまとめ、順次、各投稿者に対して加筆・修正をお願いしているところで

す。

加えて本号では、年報の質向上へ向けた取組として、編集委員による座談会を企画しました。その内容をとりまとめて年報に掲載し、これから年報への論文投稿をめざす会員のみなさまの参考に供することにしております。

なお、年報の質向上は広く学会の研究活動の活性化に関わる課題でもあることから、現在、企画研究 WG をはじめとした他の委員会やWGとの連携を模索中です。動きがありましたら、本学会ウェブサイトにてお知らせいたします。

(年報編集委員会委員長 稲永 由紀)

## 広報委員会報告

### 各支部広報委員会のご紹介

広報委員会では、支部からの情報発信を充実すべく、4支部からの委員によって構成されています。各支部のメンバーが、支部長と連携しながら支部のウェブサイト情報や研究会報告などを担当しますので、よろしく願いいたします。

北海道支部: 小林純、高橋秀幸

関東支部: 石田宏之、青野友太郎

関西支部: 八木章

九州支部: 岡本信弘、中原淳二

### メルマガ発行について

学会ウェブサイトの最新情報をメルマガにて随時会員の皆様にご案内しております。メルマガ配信をご希望の方(特に新入会員の皆様)は広報委員会(jsi.prc@gmail.com)までご連絡ください。

### 研究業績ならびに取り組み事例の web 掲載のご案内

前号でご案内いたしましたように、学会員の研究等に関する情報共有の場として、ウェブサイトに「会員・大学のキャリア関連業績ページ(仮称)」を開設することになりました。近刊の著書など情報発信を希望される方は広報委員会宛にお問い合わせ下さい。なお、掲載にあたっては、原則、個人およびグループでのインターンシップに関する活動(著書・論文紹介、研究助成金の申請、共同研究の実施など)を、掲載の可否等については、広報委員会で検討された後、ウェブサイトに掲載されません。

(広報委員会委員長 石田 宏之)

## 企画研究 WG 報告

企画研究 WG では、平成 23 年度文部科学省先導的大学の改革推進委託事業「国内外における産学連携によるキャリア教育・専門教育の推進に関する実態調査」の企画公募への対応について有志による検討を行い、九州大学人間環境学研究院で研究組織を編成し応募・採択されました。これは、半年間の研究期間で米英独豪日のインターンシップ等の実態調査とセミナー開催による研究課題の探究を行うものです。2012 年 3 月 17 日(土)には、九州大学西新プラザにおいて、高等教育国際セミナー「実社会と対話する大学教育-インターンシップから職業統合学習へ」を開催しました。

ンシップから職業統合学習へ」を開催しました。

このセミナーでは、「実社会と対話する大学教育」に焦点をあて、国内外のインターンシップ、コーオプ教育、職業統合学習の先導的事例ならびに政府による推進政策について比較考察し、今後のキャリア教育・専門教育の推進方策を検討しました。

講師および報告内容としては、吉本圭一会員(九州大学)の「研究課題と調査概要報告」に続いて、Judie Kay 氏(豪 Victoria 大学)「北米のコーオプ教育と豪州・職業統合的学習」と、Brenda Little 氏(英公開大学)「大学におけるエンプロヤビリティ育成と産業・地域の参画」の 2 名の海外講師による基調講演、そしてパネルディスカッション「インターンシップの充実に向けて英独豪米日の実践と政策に学ぶ」が展開されました。亀野淳会員(北海道大学)の司会の下で、上記講師に加えて、宮川敬子氏(NPO 法人 WIL)「北米のコーオプ教育の先導的モデルについて」、坂野慎二会員(玉川大学)「ドイツの高等教育における職業統合的学習へのアプローチ」、中川正明会員(京都産業大学)「日本の先導的な大学における試みから」、杉本和弘会員(東北大学)「豪州高等教育における学習と職業の連携」、稲永由紀会員(筑波大学)「英国の大学におけるサンドイッチプログラムとエンプロヤビリティ育成」、飯田直弘会員(九州大学)「イングランドの大学における職場に基礎を置く学習に関するケース・スタディ」の各氏の話題提供をもとに、インターンシップの充実に向けて、専門的学習と職業準備をどう充実させるのか、トータルな学習環境としてどのように社会的な自立に向けての人格形成へと導くのかという観点を踏まえて活発な議論がなされました。

「インターンシップから職業統合学習へ」という深化・進化の方向を巡って、インターンシップの「長期化」「有報酬化」、そのモデルとなるコーオプ教育、プロジェクト学習(PBL)、サービス・ラーニング等を包含する、より高次の教育理念を模索しました。本セミナーには、国内外の 72 名の研究者・実践家が参集し、情報交換会まで活発な意見交換や交流が行われました。九州大学の主催とともに、企画研究 WG メンバーはじめ多数の本学会・会員の協力・支援をえて実施できたプロジェクトです。今後、様々な機会でも会員の皆様にフィードバックしていきたいと考えています。

(企画研究 WG 委員長 吉本 圭一)

## 支部活動報告

### 北海道支部

#### 北海道支部総会・第 1 回研究会を開催

2012 年 3 月 8 日(木)に 2011 年度支部総会・第 1 回研究会を札幌国際大学経済センターキャンパスにて開催いたしました。忙しい時期の開催となりましたが、13 名の会員に参加いただきました。

支部総会では、2010 年度活動報告および決算、2011 年度活動方針および予算が承認され、次期 2012-13 年度の支部役員が選出されました。

研究会では、支部会員による研究・事例発表が行われ、参加者との間で活発な意見交換や議論が交わされました。発表者と内容は次のとおりです。

- ① 「北海道内の大学・短期大学におけるキャリア教育の現状と課題」椿明美会員(札幌国際大学短期大学部)・和田佳子会員(北海道武蔵女子短期大学)
- ② 「中国の文系大学院生のインターンシップに関する調査について」傳振九会員(北海道大学大学院)
- ③ 「英国における若者のエンプロイアビリティ政策」沢田隆会員(札幌国際大学)・小林純会員(札幌国際大学短期大学部)

北海道支部にて研究発表中心の研究会を行うのは、支部創立の2010年3月以来であり、研究会後半のディスカッションでは、より研究発表の場を増やし、企業からの参加者との討議を強化すべき、との意見も出されました。今後も支部では発表・意見交換の促進、また全国大会での発表支援として役割を果たして参りたいと考えております。

#### 北海道支部第2回研究会のご案内

2012年6月に2011年度の第2回研究会を開催する予定です。「地域コミュニティとのインターンシップ」をテーマに、地域と関わるさまざまな立場の方をお呼びして講演やディスカッション、研究発表を準備いたしております。詳細につきましては、後日学会ウェブサイトにてご案内いたします。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

(北海道支部 広報委員 小林 純)

### 関東支部

#### 関東支部第3回研究会の開催

2012年3月31日に中央大学駿河台校舎にて、第1回役員会を開催し、本年度第2回(支部設立後通算第3回)の研究会を2012年5月26日に東洋大学白山第2キャンパスにおいて開催することを決定しました。

現在、秋入学など教育面でのグローバル化が迫られ、インターンシップの有効性とその活用が注目されています。一方、大学の接続先、学生のキャリア開発先のある企業においても、人口減による国内市場の縮小、新興国市場の拡大、円高などにより、従来の内需という存立基盤を根底から揺り動かされ、急速なグローバル化を迫られています。このようにグローバル化の要請が教育全体に波及しつつあり、その対応策としてのインターンシップの有効性が浮上していることを背景に、統一テーマを『先端的分野のインターンシップーグローバル化に対応する接続効果と実践上の課題ー』としました。基調講演は、岡田文雄氏(東京大学大学院)が、他6名の発表者による報告により議論を展開する予定です。詳細は、学会ウェブサイトでご案内いたします。

(関東支部支部長 太田 和男)

### 関西支部

#### 支部の体制を刷新、活動方針を策定

関西支部は2012年4月から支部執行部の顔触れを一新しました。支部長には安孫子勇一会員(近畿大学)が就任され、副支部長は長尾博暢会員(鳥取大学)、廣瀬幸弘会員(立命館大学)のお二人に加え、このたび本学会に入会された松高政会員(京都産業大学)の3

名がサポートする体制となりました。

新体制の下で協議を行った結果、新たな活動方針を策定しました。「インターンシップの教育現場で活躍されている方々に有益な情報と研究成果の提供を行う」というものです。インターンシップの教育現場では、教員のみならず職員の方も含め、多様な顔触れの方々が大変な努力をもって事前・事後教育を行い、学生たちを社会に送り出しています。しかしながら、必ずしも教育手法等は共有されておられません。関西支部としては、教育現場で活躍されている方々を強く意識し、有益な情報や研究成果を提供することを活動方針に掲げることになりました。

その第一弾として、今秋、長期インターンシップ(コオプ教育)の取組みで定評のある京都産業大学、立命館大学の2校による事前・事後研修の全容と、教育成果を把握するための評価指標についての研究成果を紹介する研究会の開催を計画しています。詳細につきましては、改めてご案内いたします。

(関西支部 前支部長 加藤 敏明)

### 九州支部

#### 九州支部 2011年度第2回研究会を開催

九州支部では2012年3月16日(金)、九州大学西新プラザにおいて、2011年度第2回研究会を開催しました。今回は日本キャリア教育学会九州・沖縄地区部会との合同研究会として開催しました。

テーマを『インターンシップ、海外動向についての研究報告』として日本型インターンシップの現状を踏まえ、海外(ドイツ・オーストラリア・イギリス)高等教育機関における産学連携教育研究が行われている研究者を中心に、6名の研究者から各国の現状と課題の報告がなされました。全体討議では約50名の参加者の中から質問を受け、インターンシップと産学連携について活発な議論が展開されました。

(九州支部副支部長 真鍋 和博)

### 平成24年度高良記念研究助成募集について

「高良記念研究助成」制度は、高良和武名誉会長から学会へご寄付頂いた基金をもとに、平成19年度よりインターンシップに係る研究・実践活動の発展・普及のため、特に若手研究者の育成や会員相互の研究交流の促進を図ることを目的として、優れた研究課題へ研究助成を行うものです。また、榎本淳子先生からも寄贈いただいておりますことを申し添えます。

そこで、平成24年度の研究助成の募集を行いますので、是非ご応募頂けますようお願いいたします。なお、募集要項、申請書式など、申請に係る書類は本ニュースレターに同封しております。学会ウェブサイトでも入手可能です。

審査は申込締切後、採否を審査、8月の理事会で決定し、研究助成対象者は大会の総会席上にて発表されます。助成期間は1年、研究成果は次年度の大会にて発表いただき、さらに研究年報に助成研究として掲載されます。

国内外における多様な視点からのインターンシップ研究、その実践活動の展開に関する研究など幅広い研究についての応募をお待ちしております。

※申込締切:2012年6月15日(金)必着

(高良記念研究助成審査委員会)

## 事務局からのお知らせ

### 「会員情報調査票」提出のお願い

4月以降に新天地で活動を開始された会員も多いことと存じます。同封の「会員情報調査票」の確認をお願いいたします。所属・住所等が変わりましたら、速やかに事務局宛お届けください。連絡先が不明になりますと、年報、ニュースレター、大会案内などの会員サービスが受けられなくなりますので、ご注意ください。

### 会費納入のお願い

本学会は2011年度より事業年度及び会計年度が7月から翌年6月までに変更になっております。ついては、2012年度会費については、7月に別途納入依頼をお送りさせていただきます。なお、2011年度の会費未納の方は、郵便振替用紙か郵貯銀行からの振込(ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は手数料が無料です)で、下記振込先までお送り下さいますようお願いいたします。銀行振込でも受け付けております。

#### 会費納入先

##### 【郵便振替】

口座番号 02750-1-108419

加入者名 日本インターンシップ学会

##### 【ゆうちょ銀行】

店番 279 (当座) 108419

##### 【銀行振込】

北洋銀行 北七条支店 (普通) 3927955

受取人名 日本インターンシップ学会

(電信振込の場合は、「ニホンインターンシップガツカイ」と入力下さい。)

(事務局)

#### 日本インターンシップ学会 News Letter 2011 No.2

平成24年5月10日発行

発行 日本インターンシップ学会 会長 吉本 圭一

編集 日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 石田 宏之

印刷 日本インターンシップ学会事務局 事務局長 亀野 淳

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目

北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研究部 キャリア教育支援室内

E-mail jsi-sec@high.hokudai.ac.jp 電話&FAX 011-706-5147

Website <http://www.js-internship.jp/>